

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を意識するために、スタッフルームへ理念を掲示し、目標にしています。	理念を各ユニットに掲示している。カンファレンスや内部研修、ケアプラン作成時には、法人の理念を柱とした取り組みが行われており、現場で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の健康教室やお祭りなどに参加し、交流を図っています。	ホームで作成した月刊誌「ぼかぼか新聞」を家族の同意の下、地域の方々に配布して、現状を報告したり、要望等を伺ったりしている。また、併設のコミュニティーハウスを利用して、地域の方々や近隣住民と積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域ケア会議、施設の行事にお誘いしたりして、理解いただくようにしています。また、アミーユ大福の新聞を毎月発行しご近所へ配布しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者様から頂いたご意見は、早急に取り入れ、サービスの向上に生かしています。	2ヶ月に1回、定期的に開催している。意見や要望があれば、カンファレンス等で取り上げ、サービスの向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にご参加いただいた時や、地域ケア会議の時に近況報告をするなどし、協力関係を築くようにしています。	市町村との関わりは少ないが、地域包括の方と密に連絡を取り合い、様々な地域での勉強会(地域ケア会議等)を通して、協力を呼び掛ける努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、スタッフ全員が研修に参加し、理解を深めています。ユニットの玄関は10時～19時は、電子錠を解錠しています。	年1回、法人からの指示で、身体拘束についての学習会を開き、職員に周知させている。また、カンファレンス時、具体例を出して話し合い、実践に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、スタッフ全員研修を受け、カンファレンスで話し合う際、日常の職員の態度について振り返りを行い、些細なことでも虐待に当たらないかどうかと、確認しあい、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は、内部・外部での研修において学ぶ機会を持ち理解に努めている。必要と思われる場合には、活用できるよう、準備しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には、入居者様ご家族へ説明させていただき、不安や疑問点にはその都度答えるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で、ご意見・ご要望を伺った際に、ご意見カードに記載し、早めに対応しています。	意見カードを玄関に設置し、意見や要望等を聞き入れる様にしている。ご家族からの意見や要望等は少ない様ですが、ご利用者からの意見や要望は多く、柔軟に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見や提案は、毎週のカンファレンスの際に、意見できる場があります。また、随時、提案もできるようになっています。定期的な職員面談の際にも、要望・希望・提案事項を聞く機会を作っています。	統括リーダーが各ユニットを回り、個人的な相談を受けたり、いつでもどこでも誰でも相談できる「なんでもコール」を設置して、運営本部の方で職員からの運営に関する意見等を集計し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を導入し、向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアに応じた回数研修を受けています。また外部の講習会などの案内も行き、自主的に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の会議は外部研修で交流する機会があり、そこで得たものを職場へ持ち帰り、サービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後しばらくは、密にかかわりをもつように心がけ、ご要望や不安などを伺い、改善に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御面会の時に、お茶をお出しし、ホームでの様子をお伝えするようにしています。ご家族はいろいろ心配なことが多いので、不安を増大させないように、お良い報告を多くするように工夫し、ご家族様が、ご要望を出しやすいように話をうかがう姿勢に気を付けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面談の時に、ご本人・ご家族様の状況やニーズを聞き、様子をみて必要と思われる援助を介護計画書にてご提示し、支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものたたみや、食事の準備などで、できることを職員と共に行っていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様には、病院受診、外出時の付添いを依頼したり、行事へのご参加いただけるようお誘いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅へお連れしたり、馴染みのお店などへお連れするようにしています。	近隣の方々や知人、親戚等が訪ねてくる事もあるが、安心してゆっくりくつろげるよう、ご家族に確認してから入室してもらおうようにしている。また、帰宅願望のある方には自宅まで帰ってもらい、馴染みの場を楽しんでもらうよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファで入居者様同士がお話できたり、数名集まり回想法をして昔を振り返ったりして、入居者様同士の交流が図れるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後、お電話にてご様子をお伺いしたり、転居先の施設へ面会訪問させていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの時、職員が聞いてきた個人の要望や希望などを伝達し、要望把握に努めています。ご家族様、本人様に以前の生活などをお伺いしたうえで、今のご意向の把握に努めています。	入所前、ご家族からご利用者の生活歴(習慣にしていた事や好きな物・事等)を伺い、日々のケアの中に取り入れている。また、ご利用者の話を最後までしっかりと聞き取り、思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の中で、ご本人様に生活歴を伺ったり、様子を観察したり、ご家族様から伺いケアプランに記載し、職員全員で情報を共有しています。 月に2回回想法を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で観察を行い、心身状態、現状をケアプランへ記載し、職員全員で情報を共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週に1度のカンファレンスで、ご本人の状態把握とケアの見直しを行います。ご本人様、ご家族様の希望・要望も盛り込み、介護計画を作成・変更しています。	毎週、各ユニットでカンファレンスを行い、ケアプランにどのように反映させていくか、ご家族の要望等も盛り込みながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記載を行っています。気づいたことや様子などは、特記事項の欄へ記載してます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご要望に応じて、サービスの内容や時間の変更などを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の美容室へ定期的に行かれる方、散歩ついでに郵便局まで出かけていただく方など、地域にな時にの場所ができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、希望されるかかりつけ医を伺い、連携を取るようになっています。協力医療機関以外へ定期受診される場合は、ご家族様に対応していただくようお願いしています。	提携医療機関の往診を主とし、各ご家庭のかかりつけ医においては、ご家族に対応してもらっている。また、専門医への受診はスタッフが支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になることや、異常を感じたときは、ホームの看護職員に相談し、医師への報告・往診依頼や適切な時の受診など、柔軟に対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、医療機関に対し、日々の生活状態の情報提供書でお知らせしたり、お見舞いに行ったときには、口頭でご様子を伝えたり、病状把握や治療方針や、今の能力体力・治療治療をうかがうようになっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期についてのご要望は、入居時にご意向を確認していますが、その時がきた場合に、ご本人、ご家族様、主治医を交え話し合い、本人様、ご家族様のご意向に沿えるように調整をし、当ホームでできることで、対応させていただく努力をしています。	ターミナルケアに向けて、日頃から不安の無い様スタッフに指導している。また、重度化に伴い、医師やご家族と相談しながら、終末期に向けた要望書を作成し、方針を共有しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の研修を職員全員が受講し、緊急時の対応・連絡方法などは、一覧表として掲示し、発生時に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回(半年に1度)入居者様・地域の方の協力のもと、避難訓練を実施しています。個々にあった避難方法一覧も掲示しています。非常食・水・排泄用具などの準備をしています。	年2回、避難訓練を実施している。町内会長の地域住民への呼びかけにより、民生委員や地域包括の方等が参加しており、地域の協力が得られた訓練となっている。また、全職員、避難誘導シミュレーショントレーニング用紙を用いて、避難経路の確認をしている。	昼夜を問わず地域の方々と協力体制が取れる様、夜間を想定した避難訓練の取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いについて週目標にあげ、訪室時のノックや声かけを忘れないように気をつけ、職員間で、お互いに注意を促すようにしています。	排泄の誘導やドアの開閉、ホールでのプライバシーを侵す様な言動・行動等について、日頃からカンファレンス等を通じ、職員同士で話し合い、実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご意見・ご要望を伺った際に、ご意見カードに記載し、早めに対応しています。表情やしぐさなどの観察・自己決定できるような声かけを行うように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での1日のスケジュールは大まかに決まっていますが、ご入居者様の訴えやご意見を尊重しながら援助しています。ご要望で、遅い時間に起床される方もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの行きつけの美容室へお連れいただいたり、服装・化粧の習慣や好みを伺い、ご本人様やご家族様と相談をして、準備したり、援助したりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者様のご要望の食べ物を用意し、外食や、一緒に作るようにしています。	食事の下処理や片付け等、できる利用者には出来るだけ参加してもらっている。また、季節の野菜を取り入れたり、一緒に食事を取ることで、好みや味の確認をしながら楽しく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量が少ない場合、夜間にも好みのもので補食に準備し、夜食のお茶をご提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア用スポンジを使用し、定期的に訪問歯科診療を受けながら、個々に合った口腔内整容を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿把握シートを使い、個々の排尿パターンを把握し、個別トイレ誘導を実施し、失禁の減少を目指しています。	排泄記録や排尿把握シートを使用して、排泄パターンを把握し、個々のスタイル合った排泄支援を行っている。実際、ポータブルトイレを居室に設置することで、自立された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やバナナ、ヤクルトを使って、事前排便を促すように取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日を決めて入浴している方もありますが、声かけにより毎日入浴される場合や予定日以外に希望された時も、柔軟に対応しています。	最低週2回を目安にしているが、いつでも入浴可能である。入浴を拒否する場合は、運動や散歩等で気分転換した後、入浴してもらうようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ、起床・就寝の時間を個別に決めています。また、疲労度に合わせ昼寝をしていただく援助をすることもあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援の際、日付・名前・時間を声に出して確認してお渡ししています。また、薬の内容もお知らせしています。薬の変更(中止、新処方、変更)の場合は、日常での観察事項を申し送り簿で職員全員が共有し、観察したことを個別に記録し、異常の早期発見を心がけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたたみの仕事をしていただいたり、夜食の提供で、夜のお楽しみ時間を設けたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎週の定期帰宅や、毎月の定期お参りに、ご家族が支援してくださっています。また、お出かけのご要望への対応や、これまでの生活習慣から個別アクティビティとして、外出支援をしています。体力に応じ、できるだけ外出できるように毎月計画実施しています。	日中、居室にこもる事がないくらい、外出支援がなされている。家族のサポートもあり、介護度に関わらず、利用者の生活リズムに沿った前向きな支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の支援のもと、財布に少額入れて管理され、宝くじを購入時、ご自身で支払をされる方があります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご要望に応じ、自宅やご家族へ電話をされる援助をします。毎年、年末には、ご家族・ご兄弟宛に年賀状を出される時の、援助をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や季節行事の装飾を工夫していません。共有空間の温度は、1日2回確認し、適温が保てるように配慮しています。	それぞれのユニットで個性がある。(観葉植物を取り入れたり、白熱等で居心地良い空間を表現したり、季節感のある飾り付けをほどこしたり等)また、居心地良く生活してもらうために、ソファや利用者の椅子の配置に工夫を凝らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳などを置き、お好きな場所で過ごしていただける工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御自宅から使い慣れた家具を持参していただき、御家族(娘様息子様、お孫さま、ひ孫様)の写真を飾るなど、心地よい空間を工夫しています。	新しい家具ではなく、昔から利用していた家具を持ち込んでもらうようにしている。また、各利用者の生活習慣に合わせ、たたみを敷いたり、三面鏡や仏壇等を配置している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアの表札や、暖簾をつけるなどして、居室が分かるようにしています。トイレには「便所」とか「トイレ」を表示し、見つけやすいように工夫しています。		